

## 合格体験記

# ちっちなミスノート

山ノ上 伸二さん

・平成 27 年度 一次合格 ・平成 28 年度 二次合格

## あんたはホントにおっちょこちょい

10月23日、二次試験を終えて会場の外に出ると、もう、真っ暗でした。駅に向かいながら、「あ〜、これで二年間のチャレンジも終わったなあ」と思うと、なぜかおかしさがこみ上げてきて、一人で笑ってしまいました。翌日には中小企業診断士受験関係のテキストや参考書を全部段ボールに詰めて、庭の物置にしまい、空いたスペースにはまだ見ていないDVDが並べられました。

もう、全然受かっている気のしない私は12月9日の合格発表日も中小企業診断士協会のHPに“一応”アクセスし、合格者の受験番号を確認しました。一番左の列に若い番号が並んでいるので、すぐに視線を一番右の列に移し、上から受験番号を探しました。「やっぱりないか…」当たり前結果にさして落胆もせず、夕方に落胆したふりをしながらかみさんに報告、「じゃあ、今日は思いっきりお肉食べよう！」と励ましてくれるかみさんを見ながら、「しばらくこの手は使えるな。シメシメ」と思っていました。

さて、翌日、トイレに入りながら、これからのことを考えていました。「う〜ん、評価にAが二つあったら、もう一回チャレンジしてもいいかな。でも、また一次試験から受けるのはやだなあ」と逡巡していると、なにかかみさんが階段をドタドタと上がったたり、降りたりしています。「洗濯でもしているのかな？」とトイレを出ると、「なんや、こんなところにおったん(大阪出身です)！中小企業診断協会からなんか来とるで」「ん？試験の評価結果の通知は15日だったはずなのになあ、ずいぶん早いなあ」とハガキを受け取り、めくってみると『口述試験のお知らせ』という表題が目に入りました。

「なんだよ、こんなの全員に知らせる必要ないじゃん。むかつくなあ」と悪態をつきながらハガキの裏をめくって評価の記載を探しましたが、ありません。「あれ？」と怪訝な顔をしていると、かみさんが肩越しにハガキをのぞき込んで、「『資格を得ました』とか書いてあるやん」と言います。人間、怖いものです。思い込んでいると目の前にあるものさえ信じることができません。「おいおい、いい加減にして欲しいな。俺が協会に電話して、不合格なんですけど、間違っただけでハガキが来てますって言わなきゃいけないの！」と怒り出すと、かみさんは「もう一度、HPよう見てみ、あんたおっちょこちょいなんやから」「そんなことあるかい」とパソコンを立ち上げ、合格者の番号を探しました。一番右の列の真ん中辺を指さし、「ほら、やっぱりないがな」と言いつつ、「あれれ？これって上から下に番号



が流れるのじゃなくて、左から右!？」と視線を左の列に移動していくと、「あっ、あった！あった！」「やったあ、やったやん！」と二人で涙を流してハグしました。そして、その後、「あんたはホントにおっちょこちょいなんやから！」とかみさんに頭をはたかれるのでした。

さて、冒頭からこんな話をもとに「最後まで自分を信じるのが大切ですよ」とか言ったところで、全然説得力がありませんよね。確かに試験が終わった時には「こりゃダメだ」と思いました。試験当日の事例Ⅱ終了後のLINEを見ると、「こりゃ、残り二つで160点ぐらいとらんとあきまへんわ」、さらに事例Ⅲ終了後には、「事例Ⅳで120点ぐらいとらんと無理やな」と、かみさんにメッセージを送っています。でも、試験が全て終了するまでは、諦めないというより、全てを出し切ろうと全力で臨んだことだけは確かです。

## ちっちなミスで大きな失点

こんなおっちょこちょいな私が大変役に立った学習法が「ちっちなミスノート」です。「あ〜、またやってるわ、いつもこうなんだよなあ〜」。杉森先生からその日の事例演習の添削指導を受けている時、毎回同じようなミスを繰り返す自分の不甲斐なさに思わずそんなボヤキが口を突いて出ました。「山ノ上さん、ぼくはね、その日のミスをノートにリストアップして、同じミスを繰り返さないように一つずつつぶしていきましたよ」という杉森先生のアドバイスにハッとした私はさっそくその日から、表紙に「ちっちなミスノート」と書いた大学ノートにミスを逐一記入することにしました。

書き方は簡単です。ミスの内容がどの事例かが分かるように頭に「I.」とか「II.」というように番号を打ち、ミスの内容を書くだけです。例えばこのような書き方です。

「IV.CF 計算で未払法人税を加味するのを忘れた。→項目○印、使用後の数値○印でミスをなくすこと」

という感じです。ここでは、併せて対策も書かれています。リストアップしたミスの数は受験までの5ヵ月間で、事例Ⅰが60個、事例Ⅱが82個、事例Ⅲが59個、事例Ⅳが173個、全体が24個の総計398個に上りました。

ところで皆さん、よく「大きなミスをしてしまった」って言いますよね。でも、ほんとにそうなんですか？正確には「ちっちなミスで大きな失点をしてしまった」ではないでしょうか？例えば事例Ⅳの投資の経済性計算は、新設備投入による様々な勘定科目等の変化が設問文で設定されています。これを一つでも見落とすと正答にたどり着くことができませぬ。下手をすると正答を出す実力があるにもかかわらず、たった一つの設定を見逃したために、5~6分のタイムロスと10点程度の失点を被ることになります。私はこの手の設問文の見落としがとて多かったです。対策として、設問の設定を解答プロセスに反映させた段階で、設問文の該当箇所に○印をし、消し込むようにしていましたが、「ちっちなミスノート」にはこの手のミスと対策がなんと11回も繰り返し登場します。

事例問題に取り組んで、模範解答を見た時に「あっ、そうか」ぐらいのミスってすごく多いと思います。実はこの感覚が一番怖いんです。なぜかというと簡単なミスなので「次

は気を付けよっと」程度で済ましてしまうからなんです。「ちっちゃなミスノート」をやってみると必ず自分のミスのパターンが発見できるはずです。私は事例演習の前に必ずこの「ちっちゃなミスノート」を見るようにしていました。この様なミスを撲滅することで本来の実力が発揮され、各事例で5~10点の失点を防ぐことができます。

余談ですが、私は事例演習で二つ折りにした回答用紙の右側から記入を始めてしまい、第3問の回答欄に第1問の答えを記入するという豪快系のミスをしたことがありますが、そんな「おっきなミス」は皆さんなら、まず無いと思って大丈夫です。

## MMCのメソッドを信じ切る

二次試験に向けて地道に勉強を重ねた人の実力は、最後の四半期ごろに逆S字カーブで、急激に伸びると言われています。私はMMCの通学生ですが、最初に立てた目標は「MMCの上位20%に入る」でした。なぜなら二次試験は上位20%を合格とする“相対評価”と言われているからです。ところが私は、事例演習や模擬試験では100人換算（常に母数が変わるので、比較する際にお勧めです）でいつも70位前後、稀に上位な時もありましたが、たいがい上がったとしても50位前後という状態でした。ところが、9月に行われたMMCの最後の模擬試験でなんと100人換算で17位にいきなり浮上したのです。これは大きな自信になりました。まぐれだとしても、自分の実力は上位20%に入る“可能性を持っている”ことだけはハッキリと分かったのです。

MCサークルをベースにしたMMCの二次試験対策メソッドは最強です。その効果が実感できるのは模範解答を見る時です。独学でやっていた頃は、自分の回答と模範解答を見比べた時に、首の骨が折れるほど首をかしげた経験が誰しもあるはず。なぜ、自分の回答がダメで模範解答が正しいのかが理解できないのです。MMCで勉強すると自分の中にMCサークルをベースとしたスタンスができます。これで模範解答がなぜ正しいのかが理解できるようになります。また、様々なところから出されている模範解答の良し悪しも、はっきりと見て取れるようになります。模範解答の内容が理解できるようになれば、自分が何を書けば良いのかが分かるようになるはず。さあ、私の合格体験記は参考になりましたでしょうか。おさらいをしましょう。

さあ、私の合格体験記は参考になりましたでしょうか。おさらいをしましょう。

- ①MMCのメソッドを徹底的に信じて、事例に対する型を身に付ける。
- ②「ちっちゃなミスノート」で失点を防ぎ、実力を発揮する。
- ③一度でいいから上位20%に喰い込んで自信をつける。
- ④試験が終わるまでは全力を出し切る。

それと、もう一つ。最後にとても大切な合格のジンクスを一つ、皆さんにお贈りします。

**最前列に座り  
講師にいじりまくられた受講生は  
必ず合格する！**